

不運に対する公正推論の日米比較

信仰との関連

○村山綾（近畿大学国際学部） 三浦麻子（関西学院大学文学部）

キーワード：内在的公正推論，文化差，宗教性

問題

内在的公正推論とは、ある人物に起こったネガティブな事象を、そのような因果関係が物理的に不可能にもかかわらず、その人物の過去の道徳的失敗に原因帰属(例：悪いことが起こったのは、その人物が悪い人物だから)することである。内在的公正推論は、宗教性が高いほど行われやすいとされているが (Harvey & Callan, 2014)、Murayama & Miura (2016 発表予定) では、アメリカ人よりも宗教性の低い日本人の方が内在的公正推論を行いやすいことが示された。ただしこの研究では、アメリカ人サンプルの多くがキリスト教信者であったのに対して、日本人サンプルの多くは特定の信仰を持っておらず、文化による要因と信仰の有無による要因との切り分けが明確ではない。そこで本研究では、信仰による事前スクリーニングを行い、Murayama & Miura (2016 発表予定) で見られた内在的公正推論に関する傾向と信仰との関係をより詳細に検討することとした。

方法

参加者 Prolific、およびクラウドワーク스에登録している 18 歳以上の男女を対象に参加者を募集した。アメリカ国籍を有し、事前スクリーニングでキリスト教を信仰するもの、または、特定の信仰なし、無宗教、無神論者であると回答し、IMC に正答した 108 名 (男性 70 名、女性 38 名；信仰あり 46 名、信仰なし 62 名；平均年齢 32.5 歳、 $SD = 11.1$) と、日本国籍を有し、事前スクリーニングで仏教を信仰するもの、または特定の信仰なしと回答し、IMC に正答した 134 名 (男性 43 名、女性 91 名；信仰あり 68 名、信仰なし 66 名；平均年齢 38.3 歳、 $SD = 9.4$) を分析対象とした。**刺激** Murayama &

Miura (投稿中) で用いたシナリオを用いた。街路樹が突然根こそぎ倒れ、男性が運転する車が下敷きになるというもので、男性が (1) 過去に窃盗の罪で在宅起訴された高校教員か、(2) 熱心に生徒の指導に当たる高校教員かで道徳的価値の操作をした。**実験デザイン** 国籍 (日本、アメリカ) × 信仰 (あり、なし) × 道徳的価値 (良い人、悪い人) の参加者間要因であった。**測定項目** (1) 道徳的価値の操作チェックに関する 1 項目 (6 件法)、(2) 宗教性に関する 4 項目 (例：「自分の日常生活において宗教的または精神的な信仰は重要である」) (3) 内在的公正推論 (例「この事故は、彼の日頃の行いが反映された結果と感じますか」) に関する 3 項目 (6 件法) であった。

結果と考察

道徳的価値の操作は成功していた。また、アメリカ人、日本人ともに、信仰あり条件の参加者のほうが信仰なし条件の参加者よりも宗教性が有意に高かった。内在的公正推論を従属変数とし、国籍 (日本、アメリカ) × 信仰 (あり、なし) × 道徳的価値 (良い人、悪い人) を独立変数とした分散分析を行った。その結果、国籍、信仰、道徳的価値の有意な主効果が得られ、アメリカ人よりも日本人で ($F(1, 234) = 28.85, p < .001, \eta^2 = .09$)、信仰なしよりありで ($F(1, 234) = 7.95, p < .01, \eta^2 = .03$)、良い人より悪い人に対して ($F(1, 234) = 74.28, p < .001, \eta^2 = .24$)、内在的公正推論が行われることが示された。また、国籍 × 信仰 × 道徳的価値の交互作用効果が有意傾向であった ($F(1, 234) = 2.78, p < .10, \eta^2 = .01$)。信仰の有無による比較を行ったところ、アメリカ人は悪い人物に対して、信仰がある人のほうがない人よりも内在的公正推論を行う傾向があるのに対して、日本人では信仰による違いは見られなかった (図 1)。以上の結果から、アメリカ人については Harvey & Callan (2014) と一貫した結果が得られたが、日本人では宗教性の有無による内在的公正推論の違いは見られなかった。また、Murayama & Miura (2016 発表予定) と一貫して、日本人の方がアメリカ人よりも内在的公正推論を行っていたことから、今後どのような要因が日本人の内在的公正推論のしやすさに影響を及ぼすのかを引き続き検討する必要がある。**引用文献** Harvey & Callan (2014). The role of religiosity in ultimate and immanent justice reasoning. *PID*, 56, 193-196. Murayama & Miura (2016 発表予定). Is Misfortune a Result of Past Misdeeds or Compensated for in the Future? - Cultural Difference in Justice Reasoning-. IACCP 23rd International Congress.

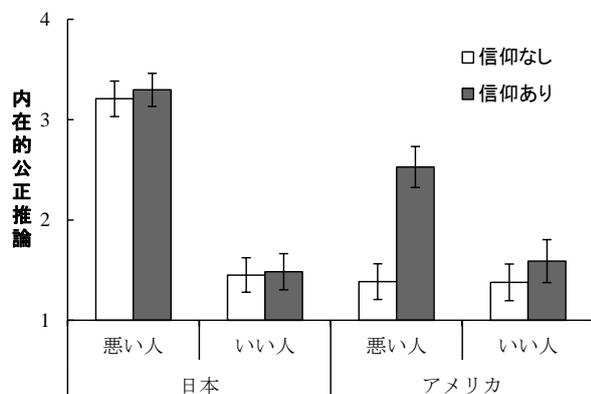


図1 国籍 × 信仰 × 道徳的価値の交互作用効果